

## 第1回 自動運転インフラ検討会 議事要旨

1. 日時: 令和6年6月27日(木) 14:00~16:00

2. 場所: 中央合同庁舎2号館8階 第一特別会議室

### 3. 出席委員

羽藤英二座長、福田大輔委員(WEB)、浜岡秀勝委員(WEB)、小花貞夫委員  
和田健太郎委員、渡部正一委員、川邊俊一委員、重野寛委員(WEB)、  
佐藤浩至委員、橋本雅人委員、太田滋徳委員、江口進委員、白土良太委員

### 4. 議事

- (1) 自動運転インフラ検討会について
- (2) 高速道路におけるインフラ支援について
- (3) 一般道におけるインフラ支援について
- (4) 自動運転システムに対する情報提供に係る検討事項について
- (5) 今後の進め方について

### 【委員からの主な意見】

- ・ 情報の提供を含め、自動運转向けのインフラについて、誰がコストを負担するのか、プラットフォームを議論したほうが良いのではないか。
- ・ V2N 通信を活用する場合、当然コストがかかる。ネットワーク障害時の冗長化などを考慮するとさらにコストが増える可能性があるため、そういったコストの観点も踏まえた検討が必要。
- ・ 将来的には、V2V 通信による車同士のネゴシエーションによる合流なども想定する必要がある。その際は通信プロトコル等の検討も重要になる。
- ・ インフラの展開を考える際には、他地域への展開に加え、時間帯、優先レーンの設定有無などの観点も必要。
- ・ 信号情報の提供に関して、信号ありでの交差点の実証によるデータの蓄積も必要。
- ・ 実証実験では、危険な場面での without データの取得など質の高いデータやエビデンスを得られるように実証することが必要。
- ・ 自動運転車優先レーンの展開にあたり、自動運転車がどのくらい走るのかなどキャパシティの観点からも考える必要がある。

- ・ インフラ整備を行う箇所は優先度をつけて取り組んでいくことが必要。
- ・ 自動運転に対する社会受容性を高め、自動運転車両を見守っていただくことで、より安全な走行が可能。
- ・ 高速道路の実証実験については、難易度が高い箇所ではなく、交通量が少ない箇所で検証した上で交通量の多い箇所に導入していくといった考えも必要。
- ・ 新東名の実証実験に係る参加者の公募は、実証するシナリオが増えることになり、より安全な自動運転車両の開発につながる。
- ・ 一般道での自動運転は現時点で移動サービスが中心のため、急発進、急ブレーキなどを避けるため、路車協調システムは必須であると考える。
- ・ 走行空間は過度にインフラ依存する空間とすると他の環境で走行できなくなるため、インフラ整備とのバランスが重要である。
- ・ インフラ支援について、コスト負担は受益者負担という考え方はあるが、公共性も高いので、この場での検討を期待する。
- ・ 3省庁協力のもと議論が進むことに期待している。
- ・ 自動運転のインフラを持続性のある形での仕組みづくりに関して議論が進むことを期待。
- ・ 路車協調システムの検討にあたっては、自動運転車向けだけでなく、一般車にも有効なものにすることで全体の交通事故低減につながる。
- ・ 通信方式（V2N、V2I 通信等）の特徴を生かした使い方の検討が必要。
- ・ 既存のシステムサービスをうまく利用していくなどコストの低減や持続可能なサービスに向けた検討が必要。
- ・ 路車協調システムなどについては、高速道路と一般道双方で共通の仕様をつくる大きなポイント。
- ・ 自動運転において、信号情報の残秒数情報が重要と考えている。
- ・ OEM が各種取組みを進めており、各社アルゴリズムを持っている。それぞれの車メーカー等の意見を聞きながら進めるべき。
- ・ インフラの検討について、具体的な構想やコスト負担について議論が深まることを期待している。
- ・ 構築コスト低減の観点からの検討が必要。加えて、インフラ(物)の維持管理は非常に難しいため、そのことを踏まえた検討が必要。

以上。